

メーブルレター(5)

ピカピカの一年生

9月はこちらは新学期。夏の間にエネルギーを蓄え、背丈も伸びた子供たちは学校に戻っていきます。

我が家の義理の長男(主人と前妻の間の子)の長男は小学校に入ることになりました。ピカピカの一年生です。写真を添付しましたので見ていただけますでしょうか。金髪の、クリクリ頭の、ややストレスフルな長男のアレキサンドルは、6歳です。彼の手をしっかりと握っているのは3歳の妹のフローレンスです。「お兄ちゃん大丈夫よ。心配なくていいわよ。」とでも言っているのでしょうか。フローレンスは保育園に戻って行きました。フローレンスは、金髪で青い目のお人形さんのような子です。いつもニコニコと朗らかな子で、一緒にいると楽しい事しか思い出さない、そんな子です。



義理の次男の子供たちも、小学校(3年生)と保育園にもどって行きました。孫たちは、ドンドン大きくなっていきます。長男家族と次男家族、子供達それぞれの性格が違うように、家族の風景も違います。長男は、博士課程を終わった後、銀行に勤めています。合理的な彼は、ひたすら、金持ちになることを目標としています。次男は、博士課程を終わった後、森林と温暖化を研究をしています。自然と生きるマイペースの研究者。二人で一緒に仲良く遊んでいた頃が嘘のようです。

先日、家族で集まった時に、この孫たちに大好評だったのが、キャベツ山のおつまみ林です。キャベツを、ヨウジにさしたミニソーセージ、ミニトマト、小さく切った厚焼き卵で埋めるのです。色鮮やかな丸い、こんもりとした山が出来ます。アレキサンドルは、日本風の卵焼きが

大好きなので、いつも卵焼きを作るようにしています。今回は、一捻りしてキャベツ山に刺し、驚かせてみました。

孫達は、家に入って、わあーと叫んでキャベツ山を取り巻くと、食べまくるのです。アレキサンドルは、一人で卵焼きを全部食べてしまったようです。デザート用においておいた、アイスクリームのコーンも、大好評でした。アイスクリームの欲しい子は、コーンを持って一列にならべーと叫ぶと、必死で並びます。食べ終わるとまた戻ってきます。マミー和子(マミーとはフランス語で、おばあちゃん。再構成家族なので、おばあちゃんが、あちこちにいるため、おばあちゃんの後には名前が入ります。)は節操がないので、子供たちはやりたい放題です。不思議にも大騒ぎもせず、怪我もせず、きちんと言われた事は守ります。フローレンスは、粘土を持ってくると、「パピー(おじいちゃん)何か作って？」主人にねだります。「オーケー。こんなもんでどうかな？」粘土を伸ばして紐状にして、二枚の紙にバシッと挟んだのでした。

フローレンスはニコツとすると、口に指をあて、「レー、静かにして。蛇さんがお昼寝しているの。起こさないで。」と、全員に見せて回っていました。子供の想像力は凄いものです。

ケベックの学校制度は、カナダの他の州ともアメリカとも異なり、1年間(幼稚園、5歳入学)、6年間(小学校、6歳入学)、5年間(中学校及び高校2年)、2年間(カレッジ、日本の高校3年と大学1年に相当)、3年間(大学)となっています。カレッジは、理系、文系及び職業専門科と別れています。ただ、娘のように、フランス式の教育を受けると、小学校は5年間です。ケベックの教育制度より、一年早く小学校を終わってしまいます。フランスの学校では、フランス式にバカコリアの試験を受ける事もできます。飛び級もあります。その結果、20歳で大学卒業という事もあります。早く終わる分、他の学部を更に取り取る事も頻繁にあります。娘も大学は、ついでだからと1年間伸ばし、他の学部も勉強し、2学部卒業しました。博士課程の勉強の傍ら、パートタイムの仕事をしています。システムはその人の希望と能力に合わせ、柔軟な部分があります。

大学入学は、やや遅く、9月半ばころです。学部によっては入学も難しく、学習期間も異なります。そろそろ、大学にもピカピカの一年生の姿がみられそうです。